

AIDS UPDATE

No.77 2007.9.28

広島大学病院
エイズ医療対策室
内線5581(輸血部長室)
Internet:www.aids-chushi.or.jp



ニューモシスチス肺炎と 当院におけるAIDS患者の現状

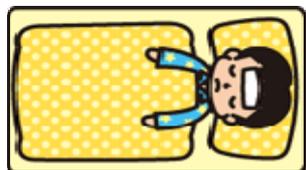
医師：齋藤 誠司

AIDSの指標疾患として最も多く報告されているニューモシスチス肺炎(Pneumocystis Pneumonia; PCP)はよく知られている疾患であるにも関わらず、未だ間質性肺炎やその他の肺炎と誤診されているケースも多くあります。今回は日和見感染の基本とも言えるPCPについての知識の再確認と、当院の自験例の報告も含めレポートしたいと思います。

PCPの原因菌はヒトに特異的に感染するP.jirovecii(ニューモシスチス・イロベチー)であり、潜伏感染の再燃と新たな感染の両方で発症します。

約90%の症例ではCD4数が200未満で発症しています。本邦ではエイズ指標疾患のなかで30%を占めています。約15%で他の肺感染症を合併しています。(結核、細菌性肺炎、CMV肺炎、カポジ肉腫など)

HIV感染に気づかずに過ごしAIDSを発症し、PCPによる発熱や咳で医療機関を受診するも間質性肺炎として治療されているケースも多くあります。その結果診断・治療が遅れ、呼吸不全が進行し重篤化するケースもまれではありません。



次のような臨床症状があればPCPを積極的に疑います。

乾性咳嗽、労作時呼吸困難、発熱、体重減少などの症状

亜急性(数日~数週間)の呼吸器症状
症状に比して聴診上理学所見に乏しい(fine crackle > coarse crackle)

口腔カンジダの合併

胸部X線上、淡い両側性びまん性の間質影



診断は組織、気管支肺胞洗浄液、誘発痰による病理検査にて確定します。治療はバクタ9~12錠分3もしくはベナンバックス3mg/kg/dayの点滴でいずれも21日間治療を行います。PCPを疑ったら早期に治療量を投与する事が大切です。換気障害が強い場合はステロイドを併用します。

当院では2006年度までに124例のHIV感染症例を経験し、1986年から2006年の20年間にAIDS患者でPCPを発症した症例は15例ありました。患者背景では、男女比は14:1、発症時年齢は24~41歳(中央値35歳)、感染経路は凝固因子製剤による感染が3例、性行為感染が12例(うち男性同性間感染が8例、異性間感染が4例)でした。

(次ページに続く)

(前ページからの続き)

検査値では、CD4数は12～162(中央値は29)/ μl 、HIV-RNA定量は $4.6 \times 10^4 \sim 3.0 \times 10^6$ (中央値は 3.1×10^5) copy/mlでした。性感染症の合併は梅毒(TPHA陽性)が8例と最も多く、B型肝炎(HBsAg陽性)が2例、C型肝炎が1例でした。AIDS日和見感染の合併はカンジダ症が5例、CMV感染症が6例(うちアンチゲネミア陽性例が4例、網膜炎・食道炎が1例ずつでした。また死亡例で進行性多巣性白質脳症1例を認めておりました。

PCPは抗HIV療法が普及するまではAIDS患者の70-80%で発症し、致死率は20-40%と高値¹⁾でした。

近年ではST合剤の予防内服と抗ウイルス療法により欧米では発症件数は年間2-3%です²⁾。しかし当院では未だ年間にHIV感染で受診する新規患者の約10-20%がPCPを発症後に受診しているのが現状です。

HIV感染症のPCPは肺病変が明らかになるのに時間を要しますが、レントゲンで間質影があれば積極的にPCPを疑い、さらにはHIV感染症を疑って診断、治療をすすめていかなければいけません。

【参考文献】

- 1) Phair JP et al. N Engl J Med, 1990; 322: 161-5
- 2) Furrer H et al. N Engl J Med 1999; 340: 1301-6



エイズ・フォーラム広島

9月12日、広島市役所で『エイズ・フォーラム広島』が開催され、エイズ医療対策室からは高田、後藤、佐藤の3名が出席して参りました。

『エイズ・フォーラム広島』は、広島市における有効なエイズ予防やエイズに関する知識の普及を目的として毎年行われています。医師会・薬剤師会・看護協会・女性団体やPTA協議会などの代表者に加えて、行政側の担当者やNPOからも参加があり、意見交換が行われました。

会議では、広島市の担当者が『即日検査の実際』として、迅速検査キットを使用した実演を行い、最新の感染者/患者数の発生状況報告や広島市の予防啓発について、取り組み例の紹介をされました。また、高田医師による『広島大学病院の最近3年半の新患の特徴』の講演や、11月に広島で開催される第21回日本エイズ学会学術集会の紹介

が行われ、広島エイズダイアル(HAD)の河野先生からは「この機会を有効に使おう！」と活発な意見が述べられました。

広島県と広島市は、12月1日の世界エイズデーに、『若年層へのエイズ予防対策』としてアリスガーデンにて予防啓発用のパンフレット・コンドームの配付と、付近の湯ノ川クリニックで、一般市民を対象とした迅速検査が行われます。さらに同日、シャレオにおいてHAD主催、HIV陽性者による講演会も行われます。

12月1日の予防啓発や迅速検査には広島県・広島市のスタッフがあたりますが、ボランティアでお手伝いをして下さる方も大歓迎しています！興味のある方はエイズ医療対策室(内線5351)までご連絡下さい。

(情報担当 佐藤)



公開学習会のご案内

エイズワーキンググループでは、今年度も公開学習会を行います。

講義 「HIVの基礎知識」

講師：エイズ医療対策室看護師 後藤文子

講義 「事例 あなたの病棟にHIV陽性患者が入院してこられた場合の対応」

講師：6階西病棟看護師 宮原明美

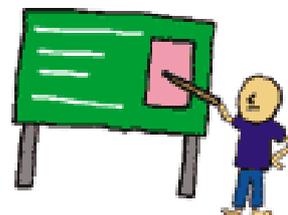
1回目 日時：10月23日（火） 17：30～18：30

場所：中会議室

2回目 日時：11月13日（火） 17：30～18：30

場所：中会議室

1回目と2回目の講義内容は同じです



以前HIVの研修を受けてから大分時間が経過した・・・という方、最近病棟・外来での看護を経験したという方、これから看護を経験するかも・・・と言う方、どなたでも参加はOKです。一緒にHIVの勉強をしましょう。テーマ以外のことでも御質問がある方は遠慮なくエイズワーキンググループのスタッフに声をかけてください。
（文責：小川良子）



<ご意見募集>

ご意見やご希望がありましたら、エイズ医療対策室(5351/5581)までお寄せくだ



第21回 日本エイズ学会学術集会・総会

21st Annual Meeting of The Japanese Society for AIDS Research, Hiroshima 2007

第21回大会メインテーマ

STEP UP! 情報・教育

情報の共有・教育の充実を通して、今より一步前へ、STEP UP! していくことが今大会のメインテーマです。

会期： 2007年11月28日（水）～30日（金）

会場： 広島国際会議場（広島市）

